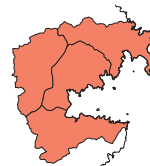


住民の声に耳を傾けて

ライフラインが
途絶した町を支えた支援



▲ 2011（平成 23）年 3 月 20 日山形からの給水支援。この頃になると全国各地から支援物資が届き始め、炊き出し支援なども行われるようになった。

写真提供 南三陸町社会福祉協議会

当初 1 万人に近い住民が避難生活を送っていた南三陸町では、町長がメディアを通じて食糧支援を訴えたことから、全国各地からたくさんの水や食料が送られ、また多数の炊き出し支援をいただいた。

当初は、内陸の住民が作ってくれたおにぎり 1 個を分け合い、温かいものをしばらく食べられなかった住民たちにとって、ボランティアの炊き出しは、忘れられない味となった。

また、水道が復旧するまでの間、隣接する登米市が水を提供してくれ、全国各地の自治体が給水車の運行を支援してくれた。民間団体、企業、そして全国、全世界の人々から寄せられた食料や生活用品などの救援物資は、続々と各避難所に届けられた。

また、2011（平成 23）年 4 月に入ると各避難所には被災した住民たちの心と体を癒そうと、さらに多様なボランティア支援が町内各所で展開された。マッサージや足湯、散髪、お茶飲みの場づくりなどのボランティアが訪れ、いずれも、住民たちの話に耳を傾ける活動だった。